

所管事務調査報告書

「可燃ごみの減量化」について

令和2年4月～令和3年6月

御代田町議会 町民建設経済常任委員会

目 次

- ・はじめに 1
- ・調査項目の選定の経緯 1
- ・調査の経緯 2～12
- ・現状と課題 13
- ・委員から出された主な意見・提案 . . 14
- ・提言・まとめ 15

■はじめに

常任委員会は、その部門に属する事務に関して調査を行う権限を有している。

所管事務調査は町から提案された予算案や条例案などの議案を審査するのとは異なり、常任委員会が自主的にテーマを設定し、調査を行うものである。

本委員会では、令和2年4月から令和3年5月にかけて、「可燃ごみの減量化」について所管事務調査を行った。

調査委員

委員長	池田	るみ
副委員長	内堀	喜代志
委員	五味	高明
委員	古越	弘
委員	仁科	英一
委員	徳吉	正博
委員	茂木	重幸

■調査項目選定の経緯

町の人口は微増傾向にあり、可燃ごみ量は年間 1,550 トン程度で推移している。

令和2年12月に1市3町で設立した佐久平クリーンセンターが稼働したが、町の可燃ごみ全量が焼却できず、一部は民間施設での処理となっている。

このような状況を鑑みて、本委員会では「可燃ごみの減量化」を所管事務調査項目に選定し、調査研究を進めることとした。

■調査の経緯

令和2年4月9日

委員間討議（調査項目の選定）

各委員がそれぞれ調査項目について提案し、協議を行った。

次の3項目が上がった。

- ①土地利用について
- ②空き家・空き地の管理
- ③ごみの分別

次回の委員会で調査項目を決定する。

令和2年5月14日

委員間討議（調査項目の決定）

- ①土地利用については、町の根幹を形成する項目で、範囲が広く調査期間が長くなる。次回以降のテーマにする。
- ②空き家・空き地の管理と ③ごみの分別の二者1択で多数決を取り、同数だったので、委員長決定で「可燃ごみ減量化」を調査項目とすることに決定した。

令和2年7月9日

委員間討議（町の現状把握）

町民課よりごみ処理の現状について説明を受けた。

世帯数、人口が増えているが、ごみは減っている。関係性はみられない。

家庭ごみは佐久平クリーンセンター、事業系のごみは民間で処理を予定している。家庭ごみを減らすうえで、一番分別しやすいのは雑紙と考えているが、なかなか浸透していない。（H27年→R1年、資源ごみ・事業系ごみが減っている）

次回、他の市町村の施策を各自で情報収集して討議をする。

令和2年8月11日

委員間討議（他市町村の施策）

京都市の雑紙分別は細分化している。

下諏訪町は剪定枝の処理場があり、資源ごみとして処理している。

令和2年10月6日

委員間討議（他市町村の施策と町民アンケート実施の検討）

委員長より、下諏訪町と諏訪市への視察に向けた下見の報告があった。
下諏訪町は、旧清掃センターで剪定枝、草、葉っぱを再資源化している。
諏訪市は木や枝を薪にして無料配布している。

町民アンケートの実施

方法：聞き取り方式 30件/人×7人=210件

期間：11月16日～12月28日

令和2年11月4日

視察（下諏訪町・佐久平クリーンセンター）

下諏訪町

- (1) 下諏訪町諏訪湖周クリーンセンターの開業に合わせて、平成29年10月より、下諏訪町清掃センター・ストックヤードで剪定木・草・落ち葉などの資源化を進めた。剪定木や長茎は、太さ25cm以下、長さ1m以下に切り、直径30cmくらいに束ね、名前の書いた荷札を付けて出し、葉は袋にまとめて出す。



- (2) スtockヤードでは、委託を受けた業者がウッドチップや土壌改良材などに加工して、町民に無料配布している。ウッドチップと土壌改良材は町民の評判が良く、余ることは無い。

雑ウッドチップ（枝や葉が混在して搬入された枝や木の加工品）はウッドチップほど見た目が良くないなどの理由から、ストックヤードの容量を超えると、焼却処分する。しかし、直接焼却処分するよりも、水分量が減量しているため、燃やすゴミの減量に一定の効果があると考えられる。



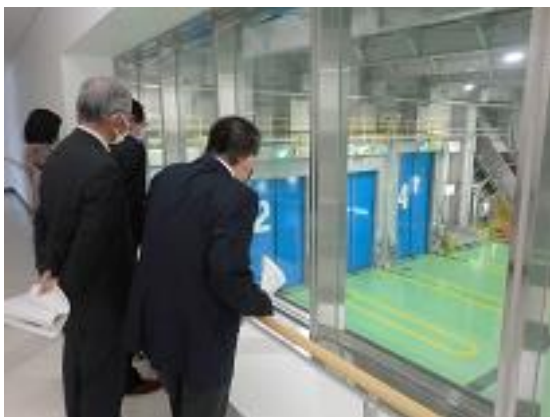
- (3) 資源ごみの持ち込みは、町民に限定し、シルバー人材センターなどの事業

者の持ち込みは 150 円/10kg となっている。

- (4) 費用対効果の考え方は、資源化できるものは資源化し、燃やすゴミの減量化を目的としている。

佐久平クリーンセンター

- (1) 8月3日より試運転を開始した佐久平クリーンセンターは10月末で工事進捗率99%、残りは外構工事の一部と玄関ホール・各階の展示物の展示、書類整理がある。
- (2) 事務所棟で概要説明を受けた後、2階の渡り廊下を經由してA工区にパッカー車が侵入してごみの搬出とB工区のごみピットエリアを見学した。ごみピットエリアからクレーンでごみをつかみ出し、攪拌してC工区の炉内で燃焼する。
- (3) B工区・C工区のごみ搬入から燃焼までは、B工区の中央制御室で監視され、整然と作業されていた。現在は試運転中なのでモニターを見ながらの手動操作も行っていたが、通常稼働時は自動運転での作業もある。
- (4) 焼却灰の排出先は、茨城県鹿嶋市と栃木県小山市の2か所に搬出しているが、先々の資源化を検討中である。焼却灰から金属類を取り出し、残りはアスファルト舗装の路盤面の材料となる。これが実現したら、ごみは全量排出区域内処理が可能となる。



令和3年1月15日

委員間討議（アンケート集計結果）

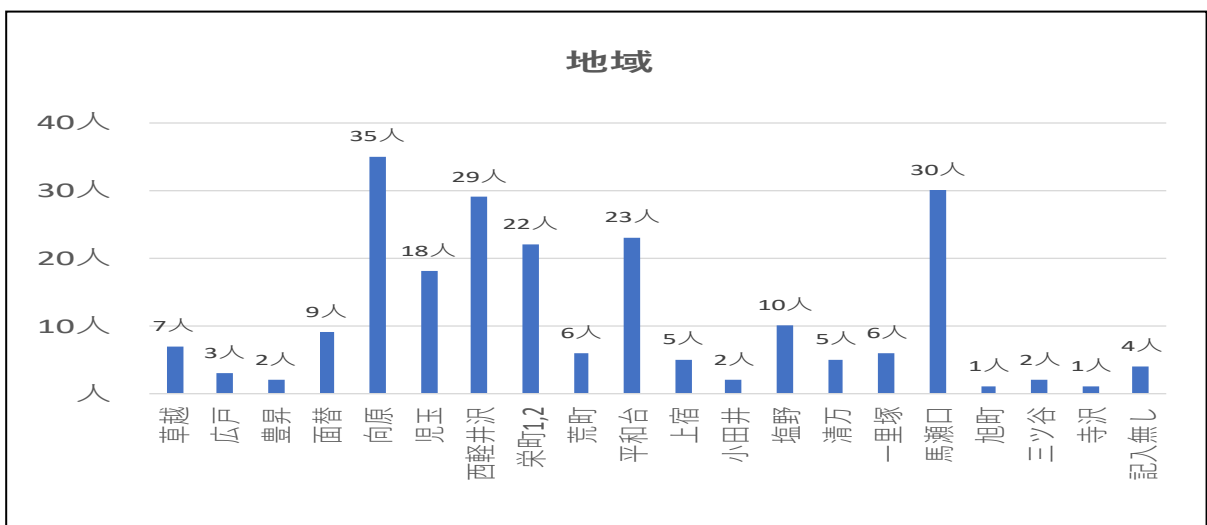
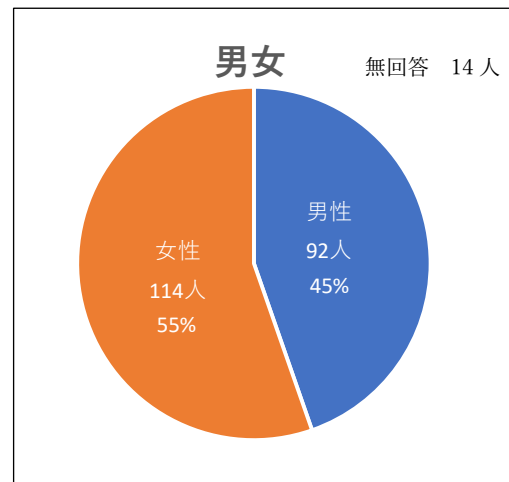
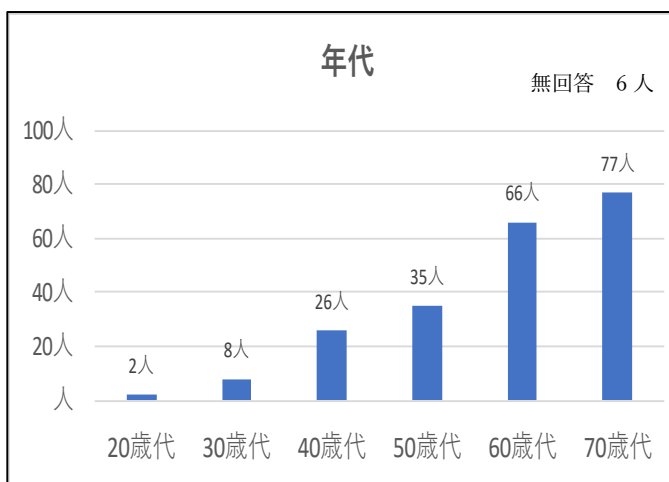
剪定枝や落ち葉を可燃ごみとして出しているのは、平和台、向原、西軽井沢に多くある。小沼、伍賀はなかった。

雑紙と可燃ごみの分別方法がわからない人が多かった。

可燃ごみを減らすのが目的となっている、雑紙や剪定枝などの分別が効果的と考える。剪定枝の資源化には設備導入は限られた地区に効果があるので、設備導入よりも捨てる場所を確保した方が良い。雑紙回収日を1回/月より毎週、回収出来たら効果があると思う。

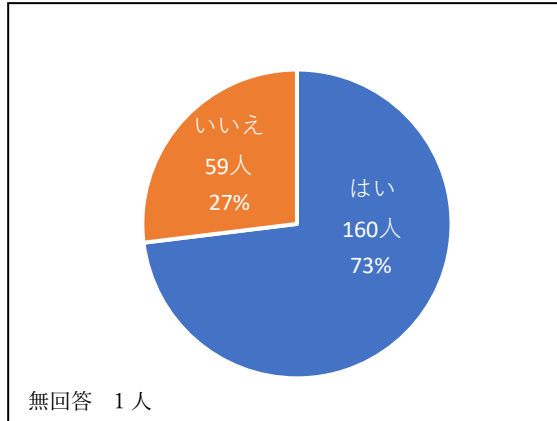
アンケート集計結果 【回答者数 220名】

【問1】年代、男女、地域

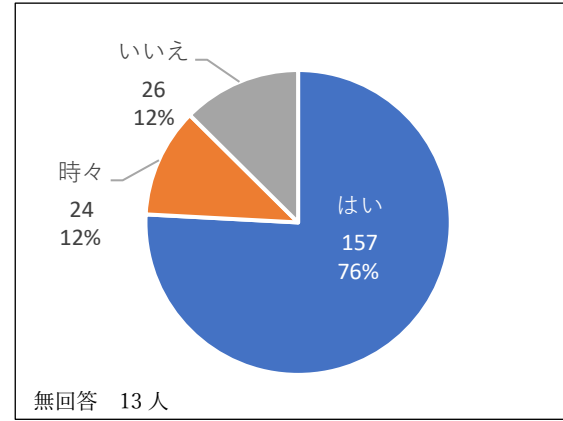


雑紙の資源化について

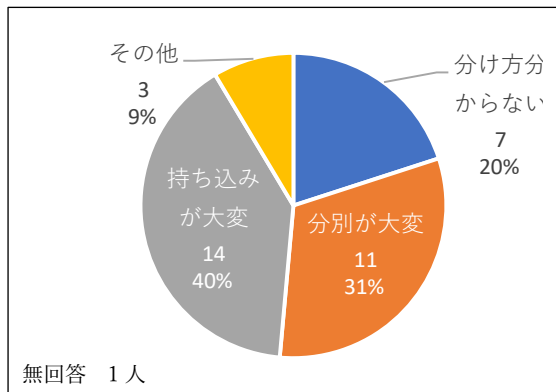
【問2】 雑紙分別袋を利用しましたか



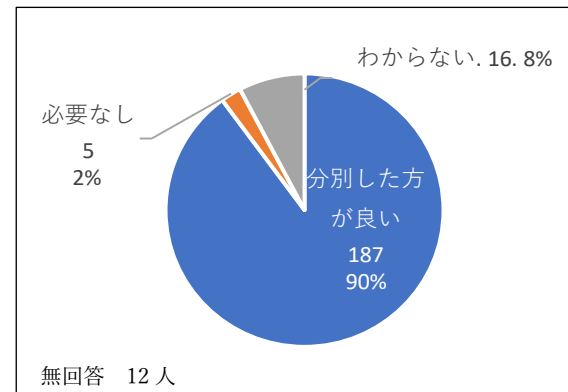
【問3】 雑紙を資源物として出していますか



【問4】 雑紙を出さない理由は（問3いいえの方）

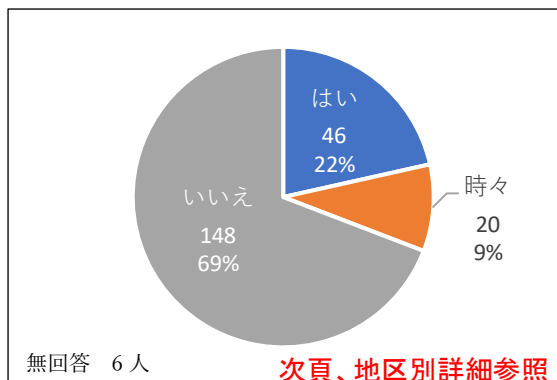


【問5】 雑紙を分別すると経費削減効果は

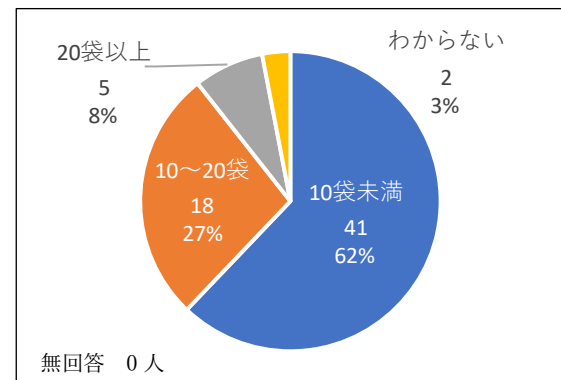


剪定枝・落ち葉・草などについて

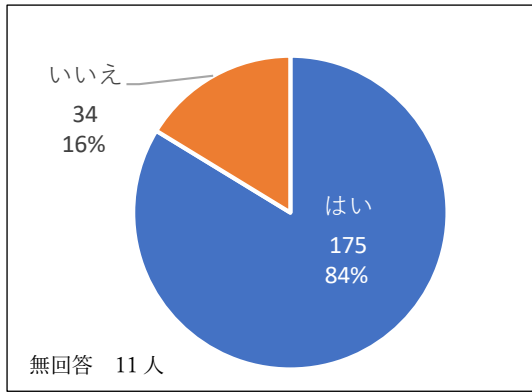
【問6】 剪定枝などを可燃ごみに出しますか



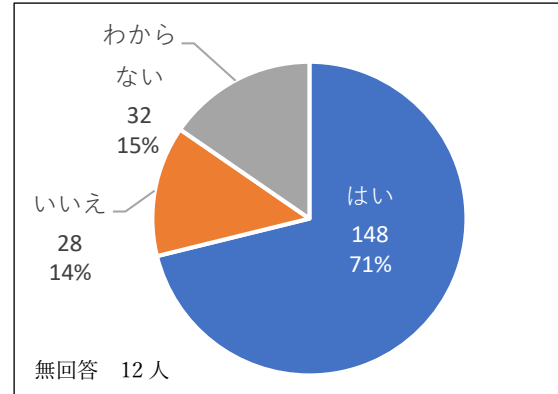
【問7】 年間可燃ごみ袋で何袋出しますか



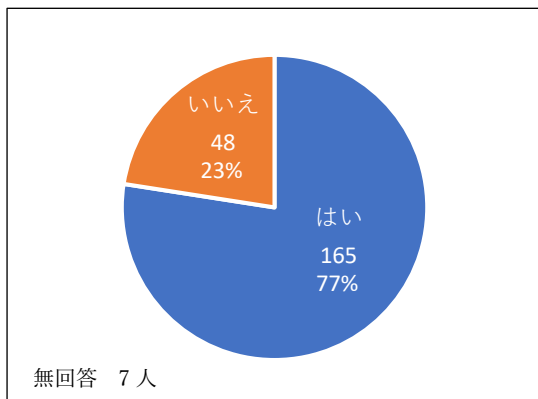
【問 8】 剪定枝などを再資源化する施設は必要か



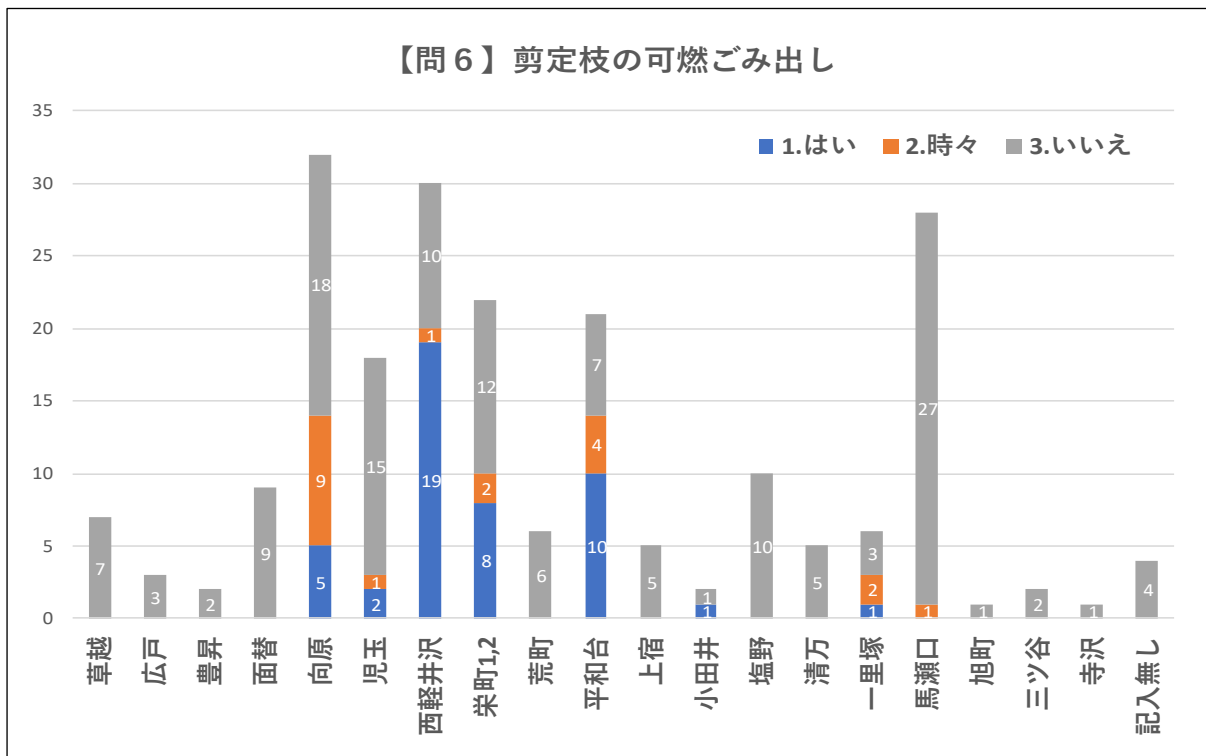
【問 9】 ウッドチップにしたら利用したい



【問 10】 たい肥にしたら利用したい



【問 6】 剪定枝の可燃ごみ出し



【問 1 1】 自由意見

1. ごみ分別

1	御代田町のごみ袋が他町村（小諸・佐久）と比べてかなり高いと聞くので、ぜひ検討していただきたい。生ごみと可燃ごみと一緒に出したい希望が強くなります。（馬瀬口）
2	雑紙でテスト用紙など個人情報に係わるものは可燃ごみで出したいです。（児玉）
3	納豆パックについて、納豆菌が付いているのでパックはプラでなく、可燃ごみと聞きましたが、まだプラに入れる方が、ほとんどで入れていない自分も迷います。周知した方が良くと思います。（向原）
4	可燃ごみにストロー1本でも入っていると持って行ってもらえない。汚れているプラが1つ位であれば処理してもらいたい。（一里塚）
5	分別からちゃんとやっていない人が多い（西軽井沢）
6	分別が分かりづらい（児玉）
7	雑紙の種類がもうすこしわかりやすくなると良いと思います。（上宿）
8	ごみの分別は悩むことが多いです。（上宿）
9	他町村と比べてごみ分別が細かいのはどうしてなのか知りたい（栄町）

2. ごみ当番・集積所

10	ごみ収集のためごみ箱が各所にあるが、中が見えない鉄板ドアのごみ箱はいつも分別不良で収集されないごみ袋が滞っている。中が見える金網ドアのごみ箱はいつもきれい、収集されないごみ袋が放置されているのは見たことがない。ごみ箱は全て金網ドアにすべき（西軽井沢）
11	集積所に雑紙など資源物もだせると良いと思います。（西軽井沢）
12	ごみ当番が3回/年回ってきます。地区によって差があり、正直大変です。（荒町）
13	ごみ当番をしていますが、名前を記入せず早めにおいでの方 気を付けてください（栄町）
14	集積場の当番はなくなったら良いと思います。プラステックを分けるのにとっても気を使っている。（西軽井沢）

3. 缶・ビン

15	缶などは集積場に出して回収してもらいたい（西軽井沢）
16	缶とビンを捨てるタイミングが少ないので増やせてもらえたらありがたいです。（西軽井沢）
17	缶とかビンを捨てる場所が町の中にあるといいと思います（西軽井沢）

4. 再資源化

18	生ごみをたい肥にする施設が欲しいです。（一里塚）
19	生ごみを他の自治体で可燃ごみに出しているのは理解できない。再資源堆肥化にし

	た方が良い（西軽井沢）
20	他の市町村ではやっている事なので、早くチップ化したり、たい肥にする事をやるべきだ（面替）
21	放射線量の測定をしっかりと行うなら再資源化賛成です。（面替）
22	ウッドチップや土壌改良材施設の建設を希望します。（上宿）

5. 新クリーンセンター

23	新しい焼却炉が出来たから、ゴミ分別を可燃ごみと不燃ごみの2種類に簡素化してほしい（馬瀬口）
24	・新しいクリーンセンターになったので、ゴミ袋が安くなるとか、生ごみの処理も可燃ごみに出来ると思ったいたので残念です。 ・高齢者が分別が難しくなっているので、少し高額の袋になっても混合型のごみとして出せるものが欲しい。（児玉）
25	御代田町独自の焼却炉が欲しい（旭町）
26	個人のごみも受け入れてほしい（児玉）
27	可燃粗大ごみの焼却センターへの持ち込みを出来るようにしてほしい（豊昇）

6. その他

28	もみ殻・小糠の利用法を知りたい（草越）
29	布団と木は井戸沢で処分を検討していただきたい（馬瀬口）
30	なるべくごみを出さない暮らしを意識しています。買い物時に出るパッケージなどのごみをもっと減らせないかと思います。個人的な目標としてごみ出しの回数を1回/2ヶ月にする努力をしています。レジ袋が有料化したことで、全体的に意識が高まったと思いますが、さらにごみを減らす、きちんと分別することが必要になってくると感じます。資源を無駄にしないためにも、回収場所や方法が更に充実することを願います。（西軽井沢）
31	ごみは集合住宅から大量に出ている。区費は？（栄町）
32	アンケート後景品が欲しい。（栄町）
33	テレビなどリサイクル法の対象家電の処分・・・リサイクル券を指定取引場所で購入すると便利だと思います。（西軽井沢）
34	可燃ごみの収集日を金曜日から月曜日に変えると落ち葉などはすぐに捨てられて都合が良い。（西軽井沢）
35	町職員の方がいつも親切に対応してくださり、意識が高まります。（児玉）
36	道や沢などのこみをどうするのか（面替）
37	町全体のごみ処理量の推移（年、月単位）を広報で公示し、問題点、町長への要請事項等を伝えてはどうかと思います。ごみ問題は今後益々費用面でも大きな負担になっていくと思います。（平和台）

令和3年2月10日

委員間討議（アンケート集計結果の考察）

可燃ごみの中で、雑紙の混入率の現状調査が出来たら良い。広報やまゆり（R2年1月号）で、可燃ごみの組成調査実施報告がある。平成30年度の可燃ごみ処理量1,565トン中、雑紙は141トンで9%の混入があった。雑紙が正しく分別されると740万円/年の効果が期待できる。

剪定枝・草木の組成調査データは無し。

次回は軽井沢町貯木場を視察し、剪定枝、草木の処理を調査する。

令和3年2月15日

視察（軽井沢町貯木場・町 黒岩土場）

軽井沢貯木場

- (1) 貯木場は平成14年に設置され、町内で伐採された樹木の幹及び枝条の有効活用を図り、資源の循環的な利用を進め、意識の高揚を目的とした。
- (2) 貯木場では、会計年度任用職員が受付業務を行い、委託を受けた業者が搬入された枝条などを破碎・チップ化して、町民に無料配布している。破碎済のチップは余ることは無い。
- (3) 利用者は原則として町内の個人とし、搬入搬出にかかる費用は無料としている。利用者が伐採木の搬入を業者へ依頼する場合は、委任状を提出する。なお、業者が宅地開発などの目的で発生した伐採木などは受け付けない。
- (4) 開場は、月・火・金・土・日曜日の午前9時～午後5時で搬入量は軽トラック3台/日・人（約1トン）である。
- (5) 破碎用の枝は常時搬入されるので、チップについても常に搬出可能である。古いチップから搬出し、チップ滞留期間は2ヶ月程度。



町 黒岩土場

- (1) 町・産業経済課 耕地林務係が管理している町有地で、町内公園など町所有地の伐採木、枝条の捨て場所、及び事故にあった動物（犬、猫、鹿など）の捨て場所になっている。
- (2) 沢の際にあり、応急的な仮置き場の様相がある。
動物の死骸などを察知して、カラスなどが寄ってくる事もある。
また、通学路に面しているので、種々の課題有り。



令和3年4月13日

委員間討議・町との意見交換（施策提案の検討・町部局との意見交換）

委員間で、今までの活動経緯を振り返っての意見交換と町部局への質問事項の整理をした。

町の担当部局である町民課の柳沢課長、浅川補佐を交えての質疑応答と意見交換を行い、提言に反映させることにした。

令和3年5月11日

委員間討議（報告書まとめ①）

所管事務調査報告書草案をもとに、今までの活動経緯のまとめと「現状と課題」、「委員から出された主な意見と提案」、「提言・まとめ」の各項目について、意見交換を行った。

令和3年6月2日

委員間討議（報告書まとめ②）

5月11日に出た意見を基に修正した所管事務調査報告書草案を確認し「現状と課題」、「委員から出された主な意見と提案」、「提言・まとめ」の各項目について、最終確認を行った。

■現状と課題

1. 雑紙の分別

雑紙分別は進んでいるが、まだ不十分と考える。アンケート結果より4分の1の人が雑紙分別袋を利用していない。また、同じく4分の1の人が雑紙を資源物として出していない。

平成30年8月と令和元年8月にそれぞれ実施した可燃ごみ組成調査の結果より、平成30年の雑紙混入率は14%、令和元年は9%であった。雑紙分別啓発袋等を配布した効果で14%から9%に減少したと思われるが、可燃ごみへの雑紙混入があるのが実態である。

平成30年の可燃ごみ処理量1,565トンに雑紙混入率14%（141トン）が正しく分別されたと仮定すると、一年間で740万円の経費削減効果が期待できる。（数値は「みよた広報やまゆり 令和2年1月号」より抜粋）

2. 剪定枝・草木の処分

町に剪定枝・草木の捨て場所は無いので、可燃ごみとして出している。

アンケート結果より可燃ごみとして出す地域は限られている。（主に、御代田地区は可燃ごみとして出す。小沼と伍賀地区は自分で処理している。）また、可燃ごみとして出される量の把握はできていない。

■委員から出された主な意見・提案

1. 雑紙の分別

- (1) 雑紙の収集日が現状1回/月から増やせれば雑紙は出しやすくなるとの意見もある。雑紙収集日を不燃ごみ収集日と同じ水曜日になると、雑紙収集は毎週行えるが、収集業務のやりくりが難しい。また、不燃ごみと雑紙を隔週で収集すると町民が混乱する。
- (2) 雑紙分別啓発袋を当初3枚配布した後、袋が無くなったので分別しない人が見受けられる。
一般の紙袋を雑紙袋とする町の方針の啓発が不足している。
- (3) 雑紙分別方法が1冊（暮らしのカレンダー）の冊子になっているので、見にくい。煩わしいので、分別しないで可燃ごみとして出す人が見受けられる。
- (4) 雑紙を正しく分別すると740万円の経費削減効果が期待できることが町民に伝わっていない。啓発が不足している。

2. 剪定枝・草木の処分

- (1) どの程度の量が可燃ごみとして出されているか不明である。
- (2) アンケート結果より、可燃ごみとして出す地域は主に御代田地区だったが、サンプル数に限りがあったので、実態を正確に把握する必要がある。
- (3) 剪定枝・草木の捨て場所の確保が必要と考えるが、町民が持ち込む場合、一定のルールが必要である。(単なるゴミ捨て場になる可能性あり。) また、捨て場所の選定については、捨てた剪定枝・草木の処理方法、周辺環境への影響などを考慮する必要がある。
- (4) 再資源化の一例として、破砕機導入とチップの配布が考えられるが、費用対効果の把握は必要である。
- (5) 視察先の下諏訪町及び軽井沢町の担当者は、共に「ごみ処理を単なる費用対効果で評価すべきではない。いかに再生利用するかを考えるべきだ」と述べていたことが印象に残っている。
- (6) 竹を炭にする機械を平和台の「なから」が保有している。炭にすると体積が1/10くらいになる。竹から炭への再利用（消臭・乾燥など）ができる。

■提言・まとめ

可燃ごみの減量化を進めるには、費用対効果だけでは計れない。SDGs の達成に向けて、循環型社会の形成は重要ととらえる。雑紙・剪定枝・草木を単なるごみとしての位置づけから 3R (Reduce リデュース発生抑制、Reuse リユース再使用、Recycle リサイクル再生利用) を積極的に実践し、再資源化に向けた施策の展開を期待する。

1. 雑紙の分別

雑紙分別を一層進めることにより経費削減に努め、佐久平クリーンセンターへの可燃ごみの搬入量を減らすよう提言する。

- (1) 雑紙分別方法を冊子 (暮らしのカレンダー) から抜粋して、掲示できる 1 枚の用紙にわかりやすくまとめること。
- (2) 雑紙を正しく分別すると 740 万円の経費削減効果が期待できることを町民に理解してもらえるように啓発すること。
- (3) 雑紙分別啓発袋を定期的に配布するなど、分別を継続できるようにすること。
- (4) 雑紙を出しやすくするよう検討すること。

2. 剪定枝・草木の処分

今までは「ごみ」として扱っていたが、今後は資源としてリサイクルすることを提言する。

- (1) 可燃ごみとして出される剪定枝・草木の量と、出す地域の現状把握をすること。
- (2) 処理方法 (置場・破砕機・委託など当町に見合った方法) について検討すること。